

熊本地震から約3年、復興へ新たな一步

# 横江大橋 通行再開



問合せ 建設政策課☎33-4116  
県南広域本部 土木部 維持管理課☎33-3691

## 震災からの復興

県道八代不知火線(338号)は八代港と県央、県北方面を結ぶ重要な物流道路であり、農業・水産業をはじめとする地域産業の面からも重要な路線です。

しかし、熊本地震で横江大橋の中央部の橋脚が約2・5m沈下し、アーチ型の橋全体がM字型に変形するなどの損傷が生じ、全面通行止めになりました。横江大橋通行止め期間中は相当量の車両交通が、国道3号や県道八代鏡宇土線などへ迂回を強いられ、渋滞や振動、騒音が問題になっていました。

県は平成31年3月の開通を目指し、平成28年9月に復旧工事に着手。「1日も早い開通」をスローガンに工期短縮が見込まれる施工手法に見直すなど工事を進め、予定より約2カ月早い通行再開を果たすことができました。

## 待ち望んだ通行再開

そして2月2日、約3年ぶりに横江大橋が通行を再開しました。

## VOICE

### ～横江大橋、再開への思い～



寺野 弘一さん  
(鏡町)

私を含め、迂回路近くの人たちは余震かトラックの振動が分からない日々が続き、不安だったと思う。通行再開して安心して眠れるようになり、良かった。地震前の生活に戻ることが復興と思うので、今後は迂回路の損傷という爪痕を直してもらいたい。



岡田 健志さん  
(松木運輸)

横江大橋がある県道八代不知火線は八代港から県北方面に向かう主要な道路。今まで国道3号や県道14号に大きく迂回していたが、通行再開したことで熊本まで約30分の短縮になった。運送会社としてうれしい。



▲通行再開を喜び、笑顔で横江大橋を渡る関係者

同日に行われたセレモニーには県や市関係者、地元住民ら約100人が出席。通行再開を祝い、テープカットや渡り初めを行いました。中村博生市長は「横江大橋は本市の西側を通る物流ルートの役割を担っている。通行再開を熊本地震からの新たなスタートとして、八代のさらなる発展につなげていきたい」と話しました。  
今後は仮橋などの撤去や周辺の護岸や道路の修復などが行われる予定です。  
横江大橋が通行再開したことにより、物流や地域産業の支援といった被災前の道路機能を十分発揮することで、八代地域のさらなる発展が期待されます。